

東北学院時報

2月・3月合併号

発行

学校法人 東北学院
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
電話 022-264-6423
FAX 022-264-6478

編集兼発行人 原田 善教
編 集 部
法人事務局 広報部

お電話相談窓口はこちら
大学・大学院 ☎022-264-

学長室政策支援IR課 (調査依頼・各種補助金)	6424
アドミッションズオフィス (受験相談・資料請求)	6455
学生課 (学生生活相談・奨学金)	6471
教務課 (成績・各種証明書発行・大学院相談)	6451
就職キャリア支援課 (求人依頼・就職相談)	6482
財務課 (学納金・寄付申込)	6441
研究機関事務課 (公開講座・講演会)	6430

中学・高校 ☎022-786-1231
榴ヶ岡高校 ☎022-372-6611
幼稚園 ☎022-368-8600

ご購入のお申し込み・同窓生の住所変更、同窓会開催のご連絡は校友課へ
☎022-264-6468
振替口座 02240-9-883



大学、中学校・高等学校、榴ヶ岡高等学校

二〇二二年度 入学試験実施

四月から共学化がスタートする中学校・高等学校で、女子児童と生徒が受験する初の一般入学試験が実施された。

中学校・高等学校

中学校入試は一月六日と二十二日に実施され、募集定員百八十名に対し前・後期合わせて三百名(前年比百四十名増)が志願。二月一日、三日に行われた高等学校入試は、一般・推薦合わせた募集定員三百六十名に対し推薦入試



写真上：中学校入学試験の様子 下：高等学校入学試験の様子

と説明。発表以降は、女子生徒を受け入れるようになったことが挙げられる。二〇二〇年十月、これ

と説明。発表以降は、女子生徒を受け入れるようになったことが挙げられる。二〇二〇年十月、これ

の着用品は、今年二月末時点ですべての作業が終了し、共学化に向けた準備を着実に進めてきた。また、昨年七月に中学校

前期試験は六学部十六学科の定員千四百三名に対し八千七百七十六名(前年比二千九百三名増)が志願し、志願倍率は過去十年で最も高い七・八倍となった。

合格発表は二月十五日午後二時よりインターネット上で行われ、当日消印の速達で合格通知も郵送された。また三月四日には一般選抜(後期日程)が土樋キャンパスで行われ、同十四日に合格発表が行われた。

大 学

二月一日と二日、土樋キャンパスをはじめとした十二の試験会場(仙台、札幌、函館、青森、八戸、盛岡、秋田、山形、鶴岡、福島、郡山、東京)で今年度の一般選抜試験(前期日程)が実施された。

試験会場はすべて、試験会場においてマスクの着用、手指消毒、室内の換気を徹底した。土樋キャンパスでは開門前の八時頃から受験生が並び、各会場では入構後に受験票確認が行われ、受験生たちは案内図を確認しながら足早に教室に向かい試験に臨んだ。

前期試験は六学部十六学科の定員千四百三名に対し八千七百七十六名(前年比二千九百三名増)が志願し、志願倍率は過去十年で最も高い七・八倍となった。

合格発表は二月十五日午後二時よりインターネット上で行われ、当日消印の速達で合格通知も郵送された。また三月四日には一般選抜(後期日程)が土樋キャンパスで行われ、同十四日に合格発表が行われた。

大 学

一般入学試験が二月一日、三日に実施され、募集定員二百七十名に対し推薦入試六十二名、一般入試千二百九十九名が志願。

試験は一昨年末まで、隣接する大学泉キャンパスを使用していたが、二〇二三年に同キャンパスが移転することを把握し、昨年から会場を榴ヶ岡高等学校に移し行われていた。

当日は新型コロナウイルス感染症対策として、サーモカメラによる検温を実施し、受験生にはマスクの着用と手指消毒の徹底を呼びかけた。校門付近から会場入口付近まで硬

式野球部の在校生が会場誘導を手伝い、受験生たちに「頑張ってください」と声をかけていた。受験生たちは在校生の応援に励みながら緊張した面持ちで会場に向かい試験に臨んだ。

合格発表は二月七日午後四時よりインターネット上で行われた。

合格発表は二月十五日午後二時よりインターネット上で行われ、当日消印の速達で合格通知も郵送された。また三月四日には一般選抜(後期日程)が土樋キャンパスで行われ、同十四日に合格発表が行われた。

聖書のこぼれ

一つの部分が苦しみ、すべての部分が共に苦しむ、一つの部分が喜ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

「リントの信徒への手紙一 二二章二六節」

共に苦しみ、共に喜ぶ

新型コロナウイルスの猛威に見舞われて二年目の年度が終わろうとしています。その影響は社会のさまざまな面に現れています。厚労省の『令和三年版自殺対策白書』では、働く女性や児童・生徒の自殺者数が増加したと報告されています。社会が抱える危機や課題は、まず先に社会の中で弱い立場の人に襲いかかり、表面化するものです。感染症の対策がさまざまに議論され、同時に経済対策の必要性が叫ばれますが、心のケアへの対策に関しては、表立った議論がなされていないように見受けられます。

表題の聖句は「キリストの体」である教会の構成員を、体の部位・器官に例えた箇所の末尾の部分です。人間の社会や組織を人体ないし有機体に例えた論説は、より古い古代ギリシア思想にも見られますが、パウロによるこの第一コリント二二章の議論で驚かされるのは、単に各部位が独自の働きで全体を支えているという比喩にとどまらず「それぞれが、体の中でほかよりも弱く見える部分だが、かえって必要なのです」(二二章二節)と断言していることです。

体が不調な時には、真っ先に体の弱い部分に異変が生じます。その時点で対策を講じれば比較的軽症で抑えられますが、そのまま放置してしまうと全身が深刻な事態に陥ります。弱い部分はまさにその弱さによって、全体の危機をいち早く教えてくれているのです。

現代の日本社会には、「自己責任論」が広まっているといわれます。困難な状況に陥るのは対応策を怠った本人の責任だとして、救済措置を必要とする立場です。自分がそうした人生の負け組にならないよう、子どもの頃から就業意識を植え付けられるようになっていきます。こうした社会では、常に他人との比較の中で優越感や劣等感を感じて生きるようになります。誰かが苦しめばそれを蔑み、誰かが喜ばればそれを妬むことになるでしょう。そのような社会は一つの体にはなっており、個々の人がバラバラに孤立しているだけの状態です。長く続くコロナ禍がそれに拍車をかけることになったとすれば、恐ろしいことです。

社会が共に苦しみに喜び、一つの体となるためには「愛」が必要です。この三月で東北学院を卒業して社会に出てゆく若者たちが、東北学院で学んだイエスの愛にしっかりと根を下ろし、新たに所属する組織と共に苦しみに喜び、一つの体となるために、よき働きをしてくれるよう祈ります。

大学宗教主任 木村 純二